

学校法人稲置学園「2025 年度事業計画」

学校法人稲置学園（以下「学園」という）は、2023 年度に策定した「稲置学園 第 4 次中期計画 学園中期計画・部門別中期計画(以下、「第 4 次中期計画」という。)」に基づき、建学の精神「誠実にして社会に役立つ人間の育成」の具現化に日々努めている。

昨今、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)による混乱は終息を迎えつつあるものの、世界は国家間情勢、環境問題、エネルギー問題、経済問題など、多くの課題が未解決のまま山積しており、容易に将来像を確立することが難しい状況となっている。

中でも、教育機関に直接的かつ重大な影響を与える少子化は、深刻化を増すばかりであり解決の糸口はつかめていない。また、歴史的な円安に起因する経常コストの増大も大きな負担となっている。

学園が、盤石な経営基盤と地域社会・ステークホルダーから支持される教育機関としての地位を得るためには、「教育」の再構築による新たな付加価値の提供によって質保証・充実・発展を図り、多様化する社会課題を解決することができる人材を育成する必要がある。

具体的には、高等教育分野においては「大学・高専機能強化支援事業」の採択を受けて新たな領域「自然科学系領域(理学・工学・農学等)」への進出を本格的に検討することであり、中等教育分野においては中高一貫 6 年教育による探究力育成、幼児教育分野においては幼保連携 6 年教育・保育モデルの確立である。また、学園設置校及び外部機関との連携によってもたらされる多様な学びの環境も必要不可欠である。

そのためには、学園で働く役員・教職員の意識及び働き方の改革が必要となる。また、飛躍的な進歩を遂げている ICT 技術を、学園にとって馴染みやすい形で取り込み教育・研究・業務に効果的に活用すると共に、新たな価値を創造する DX の推進が必要不可欠である。

その一方で、学園財政の支出は人件費の増加、止まらない消費者物価の上昇等によって事業を進めるために必要不可欠な財政基盤の安定性に厳しさが増している状況にある。しかしながら、学園が継続して教育活動を行うためには、役員・教職員が一体となって教育の質保証・向上の努力を重ね現状を打破しなければならない。

また、2025 年 4 月に施行される「私立学校法を一部改正する法律」にて学校法人のガバナンス強化及び外部評価が更に厳格になることから、公共性と自主性をより一層重視した組織体制の確立にも努める必要がある。

学園では、これらの課題を踏まえた上で第 4 次中期計画において、「幼児・中等・高等教育の各分野で全国的な評価を得ている総合学園となる」という学園長期ビジョンを掲げ、持続可能な経営基盤確立の第一歩を踏み出した。

本中期計画では「学園全体のガバナンスとマネジメントを確立し、経営機能と教学機能を緊密に連携した組織となる」という全体目標のもと、部門毎に以下の中期計画目標を定めた。

【大学】

- ・自然科学・応用科学領域をカバーする新学部構想について検討する。
- ・特色ある星稜“STEAM-D”教育の推進により、幅広い学生の多様な学びと成長を実現する。
- ・能登半島の創造的復興とともにあゆみ、地域創生に貢献する全学的な取り組みを推進する。

【短期大学部】

- ・大学と連動して、自然科学・応用科学領域をカバーする新学部への入学定員転換を実現する。

【中学・高校】

- ・中高一貫を基本とする中等教育体制を確立し、教育方針に沿った志願者・入学者を確保する。

【幼稚園】

- ・金沢エリアでオンリーワンの乳幼児保育・教育を実現する。

【法人部門】

- ・柔軟な組織運営と確実な業務遂行体制を確立し、発展と成長を可能とするための変革型組織風土を形成する。

2025年度事業計画では、学園長期ビジョン実現を目指す第4次中期計画の二年目として、各部門が重点的に取り組むべき内容を以下の通りにまとめたものである。

【金沢星稜大学】

① 自然科学・応用科学領域をカバーする新学部構想の検討

【取組方針】未来を支える人材を育む大学等の機能強化の下、新しい分野への教育研究の展開を見据え、大学規模の維持及び適正規模の調査・提案、新学部の設置を検討する。

【期待効果】新学部の設置と既設学部等の改組を見据えた調査、企画提案などを行うことで、特色ある学部・学科づくり並びに大学の発展・充実及びブランド力の再構築につなげることができる。

② 星稜“STEAM-D”教育の推進

【取組方針】リベラルアーツと数理教育を軸として、先進的な情報技術を積極的に活用し、専門教育と教養教育を、STEAM-Dのコンセプトのもと有機的に関連させた教育を推進する。

【期待効果】学生の将来の可能性を広げ、より良い社会を築くための力が育まれるとともに、教育内容と教育方法の発展と深化が図られる。

③ 教育の内部質保証体制の構築

【取組方針】「学修成果の可視化」を中心とした教育の質保証システムの整備並びに学生の主体的な学び(アクティブラーニング)を充実させるための体制を構築する。

【期待効果】・学生一人ひとりが自らの学修成果を自覚することで、学修能力・意欲の向上が図られる。

・エビデンスを示して説明できる学修者本位の評価方法に基づいて教育の内容・方法が改善され、教員の指導力向上が図られる。

④ グローバル人材育成および大学のグローバル化推進

【取組方針】グローバル人材育成のための留学制度と外国人留学生に対する環境整備（海外協定校の新規開拓と関係強化）の充実を図る。

【期待効果】グローバルな視野を持った人材の育成と双方向の留学生交流が充実する。

⑤ 学生募集活動（入試）の戦略的運用

【取組方針】学生募集にかかる分析と戦略立案機能、広報機能を強化する。

【期待効果】急激な少子化の中であっても、適切な入学者選抜に必要な志願者数を維持し、適正な入学者数が確保できる。

⑥ 産学地域連携活動の推進

【取組方針】産学地域連携の中核としての「SDGs 産学地域連携センター」の機能充実を図り、「金沢星稜大学産学地域連携ポリシー」に即した事業を推進するとともに、令和6年能登半島地震における震災復興支援活動に取り組む。

【期待効果】自治体、企業などの多様な主体との連携を強化し、地域の発展に貢献できる人材の育成と地域における人材育成機関としての役割を果たすことにより地域におけるプレゼンスの向上が図れる。

⑦ 研究活動の高度化

【取組方針】科研費や外部資金獲得率向上に向けた体制等の整備と Research map との連携・充実と併せ、新たな産学連携受託事業や共同研究の仕組み作り並びに間接経費の適切な運用を図る。

【期待効果】外部資金の獲得件数、共同研究の依頼件数及び奨学寄付金申し出や受託研究の件数の増加が見込めるとともに、創出した知的財産を社会に還元することで本学の存在価値を高め、教育研究から社会貢献までの好循環が生まれる。

⑧ 学生生活の質向上 ～「絆キャンパス」計画～

【取組方針】キャンパスを学生が集う「ハブ」（中心）と捉え、キャンパスを起点とした「多様な学び」を活性化させていくための環境整備とその活用を図る。地域の中核となる大学を目指し、人と人との出会いを促すフィジカル空間及びサイバー空間を構築し、活気あふれるキャンパスを創造する。入学から卒業までの総合的な学生生活の支援を強化するとともに、能登半島地震の震災を経験した学生の心のケアとソーシャルサポートを推進する。

【期待効果】学生がキャンパスに「居場所」を見出し、キャンパスが学修と課外活動等の拠点として機能することと併せ、障がいのある学生や震災を経験した学生に、必要な合理的配慮の提供が行われる。

⑨ 進路支援体制の整備と発展

【取組方針】就職・キャリア形成のための支援体制を充実させ、民間企業の名目就職率及び公務員・教員・保育士の合格率並びに就職先の満足度及び進路支援に対する満足度の向上と併せ、リカレント教育推進のための環境整備を行う。

【期待効果】学生一人ひとりに即した就職・キャリア形成が図られるとともに、社会人や企業等のニーズに対応したリカレント教育の支援体制が整備される。

【金沢星稜大学女子短期大学部】

① 適正な入学定員の検討

【取組方針】短期大学を取り巻く厳しい状況を踏まえ、適正な入学定員の検討を継続する。また、入学定員を充足するため、新たな広報・PRの方法を検討し募集活動に取り組む。

【期待効果】入学定員及び収容定員の充足率を 100 パーセントに近づけることにより、私立大学等経常費補助金・一般補助や修学支援制度への対応を含め適正な運営が図られ、引き続き多様な職業教育や大学編入の機能を備えた地域に密着した高等教育機関としての役割を果たす。

② 金沢星稜大学の新学部設置に合わせた定員配置の再編の検討

【取組方針】金沢星稜大学で進められている新学部設置構想に合わせた入学定員の転換及び教員配置の再編の検討を行う。

【期待効果】金沢星稜大学の新学部設置構想に合わせて大学・短大を一体的にとらえ再編を行うことで、学園の高等教育における人材育成や学生の受け入れなどに関し、社会の変化と価値観の多様化に対応し、それぞれの機能を生かした運営ができる。

③ 本学の教育資源の有効活用

【取組方針】本学学生の学習ニーズを把握し、本学の教育方針に基づき、基幹教員制度を有効に活用する。金沢星稜大学と連携しながら専門知識やスキルを持つ本学及び大学教員の教育資源を有効に活用して充実した教育を提供する。

【期待効果】グローバル化の進展と産業構造の変化の中で職業や職種が多様化しており、本学の人材育成について、金沢星稜大学の教員による質の高い教育により、幅広く知識を修得することができる。

【星稜中学校・高等学校】

① 新たな中高一貫教育実現に向けた総合的な体制の確立

【取組方針】持続可能な中等教育の基盤を構築するため、星稜独自の特色教育、先取り学習、探究活動を含めた新たな中高一貫 6 年教育および高校 3 年制教育を確立し、運営体制を整備する。

【期待効果】新たな中高一貫教育校としての教育システムと高校 3 年間における教育プログラムを内外にアピールすることにより他校との差別化を図り、安定した志願者・入学者の確保につなげる。

② 高校 SSH(スーパーサイエンスハイスクール)の指定と運営

【取組方針】SSH 指定校を目指し、学校全体で教科を横断して組織的に研究活動支援に取り組むことにより生徒の科学的・論理的思考力を育み、次世代の課題解決に貢献する人材を育てていく。

【期待効果】新たな中高一貫教育体制に SSH が高い付加価値を加え、魅力ある特色教育の実践が可能となる。また、他校および地域の方への研究発表を通して交流を深める取り組みが本校の探究実績を広く普及させ、効果的な生徒募集および学校の活力維持につながる。

③ 中学研究開発学校の指定と運営

【取組方針】中高一貫教育の前半となる中学 3 年間ににおいて、協働的な学びや個別最適な学びを実践し自身の興味関心や個性を認識させることにより高校につながる探究活動の基礎力を育成する。

【期待効果】北陸地区の私立中学校では初となる研究開発学校の指定を受け、新たなカリキュラム研究

を行うとともに高校 SSH と並ぶ本校の特色教育の目玉として他の中学校との差別化を図り、中学受験層の拡大と志願者増加につなげる。

④ 生徒の進路支援体制の強化

【取組方針】新たな中高一貫 6 年教育と高校 3 年教育体制において、星稜で学ぶ生徒がこれまで以上に充実した進路を実現できるように、ICT の積極的な活用をはじめとした各種支援体制の強化をより一層推進する。

【期待効果】多くの教員が多面的に生徒の進路支援に関わる機会を増やし、生徒が学習に向かう動機付けを自律的なものへと導くことで、高い進路先を目標としながらその志を維持できる精神的な支えとなる。

⑤ 中高総合寮における学習支援体制と管理運営体制の確立

【取組方針】中高総合寮を教育・学習指導の場として再構築し、入寮生の選抜および規律の遵守と運営管理体制の強化を図る。

【期待効果】新たな中高一貫 6 年教育と高校 3 年教育体制による特色ある教育を実践する中で、より広範囲な地域から多様な生徒を受け入れる体制を整備するとともに、学校と寮での連携した学習指導により本校進学への付加価値を高める。

【金沢星稜大学附属星稜幼稚園】

① 園児の確実な定員確保と、そのための広報展開の充実

【取組方針】刷新した公式 Web ページや公式 SNS を有効利用し、保護者や地域が求める情報を適時配信することで、星稜幼稚園に対する興味・関心を喚起する。

【期待効果】広報活動により、星稜幼稚園や星稜子育てステーション等の取組みを周知することで、園主催のイベントへの参加者増を促し、園への興味・関心を高める。

② 幼稚園運営の将来構想の確立

【取組方針】最適な定員で行う質の高い教育保育を実施するために必要となる施設改善計画を検討する。

【期待効果】施設改善により安全かつ快適な環境を確保すると共に、より質の高い教育保育を提供することで、ハードとソフト両面からの評価を高め入園希望者の増加を図る。

③ 幼保連携した 0 歳から 6 歳までの教育・保育モデルの確立

【取組方針】特色あるプログラムを確立のため、先駆的な園の視察及び教職員の研究・研修参加を推進し保育実践の質の向上を図る。

【期待効果】教職員の積極的な研究・研修参加により保育実践の質向上、教育課程の再構築と特色あるプログラム確立に寄与する。

④ 教育・保育の質の向上のための人づくり・組織づくり

【取組方針】働く教職員にとって存在し続ける価値がある組織を形作り、優れた教育保育を実践するために、人と組織の活性化を追求する。

【期待効果】組織の魅力が向上し、教職員の成長機会が増加する。

⑤ 卒園児受入れを視野に入れた学童保育開設の検討

〔取組方針〕新たな形での卒園児受入れを検討する。

〔期待効果〕卒園児受入れ体制を整備することで、入園希望者の増加に寄与する。

【金沢星稜大学附属星稜泉野幼稚園】

① 園児の確実な定員確保と、そのための広報展開の充実

〔取組方針〕公式 Web サイトの整備と運用等広報活動を通じて、保護者や地域の方が求める情報を的確に配信し、星稜泉野幼稚園に対する興味・関心を喚起する。加えて、妊娠中から参加できる子育て支援を実施する。

〔期待効果〕星稜泉野幼稚園の存在を広く知らせ「泉野子育て広場」の参加人数が増加することで、星稜泉野幼稚園への興味・関心が高まる。

② 幼稚園運営の将来構想の確立

〔取組方針〕施設改善計画も含めた特色ある教育プログラムを開発し、他施設との差別化を図り、持続可能なオンリーワンの乳幼児施設となる。

〔期待効果〕星稜泉野幼稚園、星稜幼稚園の特性や強みを生かした個性的で魅力的な特色ある教育プログラムを作成し実施することで入園希望者の増加を図る。

③ 幼保連携した1歳から6歳までの教育・保育モデルの確立

〔取組方針〕主体性を尊重した教育課程を再構築し、特色あるプログラムを確立し保育実践の質を向上させる。また、教職員の研究・研修参加を推進し保育実践の質の向上を図る。

〔期待効果〕新しい教育課程と教職員の積極的な研究・研修参加により保育実践の質が向上することにより、特色あるプログラムに子どもたちが魅力を感じ、学びが促進される環境の提供がされる。

④ 教育・保育の質の向上のための人づくり・組織づくり

〔取組方針〕働く教職員にとって存在し続ける価値がある組織を形作り、優れた保育を実践するために、人と組織の活性化を追求する。

〔期待効果〕組織の魅力が向上し、教職員のやりがいと成長機会が増加する。

【経営管理部（総務課）】

① 補助金獲得体制の構築

〔取組方針〕補助金受給率向上のための戦略立案及び組織横断的な事業体制の構築に取り組む。また数値目標として、具体的な「補助金受給目標数値」を設定するための準備を行う。

〔期待効果〕補助金獲得体制構築及び補助金獲得の向上（外部資金獲得の向上）

② 規程の整備・改廃及び制定

〔取組方針〕規程管理体制の構築を目指す。また、各種規程の整備、改廃及び制定を行う。

〔期待効果〕ガバナンス強化

③ 寄付金募集の拡充

【取組方針】寄付金獲得状況を分析し、寄付金獲得向上のための新たな企画を立案し、実行する。

【期待効果】寄付金獲得の向上(外部資金獲得の向上)

④ 私立学校法改正への対応確認

【取組方針】令和7年4月1日施行「私立学校法の改正」に係る寄附行為の改正及び各種関連規程の整備等が適切に運用できているかを確認し、必要に応じた対応を行う。

【期待効果】ガバナンス強化

⑤ 公用車管理体制の強化

【取組方針】公用車管理に係る各種規程及び申請方法等を整備する。また、公用車に係る申請方法等をペーパーレス化することで利便性及び生産性の高い管理体制を構築する。

【期待効果】ガバナンス強化及び生産性向上

【経営管理部(財務課)】

① 津幡新キャンパスの利活用計画策定

【取組方針】新キャンパスの利活用計画策定及び施工に取り組む。

【期待効果】新キャンパスの整備を推進し、学園将来ビジョンの実現を具体化させる。

② 光熱水費抑制策の継続

【取組方針】学園全体でエネルギー使用量の削減に取り組み、光熱水費を抑制した学園運営を実施する。

【期待効果】経費削減により財務の健全化を図る。加えて、学園のSDGs推進の一翼を担う。

③ 教育施設の新增改設

【取組方針】星稜未来構想プロジェクトに基づき中高側との議論、協議を踏まえて教育施設の整備を進めていく。

【期待効果】教育施設の新增改設により、中高一貫教育の充実、活性化を図る。

④ 学園キャンパス用地(校地)における借地解消

【取組方針】2022年度に常務理事会にて提起された借地解消(購入)方針に基づき、恒常的に使用している土地の購入交渉等を能動的に実施する。

【期待効果】借地解消することにより学園経営の安定性・継続性を担保する。

⑤ 学園施設設備の更新計画策定

【取組方針】学園施設設備の更新計画を策定する。

【期待効果】必要な施設設備の更新を行い、教育研究の質を維持・向上させていく。

⑥ 基幹システムの更新

【取組方針】業務効率化に向けた取り組みとして、既存の会計システムから新会計システムへ移行できる体制を整える。併せてペーパーレス化に向けた経費精算システム等の導入についても検討する。

(既存のキャンパスプランは 2026 年 9 月末にサポート終了)

【期待効果】事務効率化とペーパーレス化により、事務コストを削減する。

【経営管理部(危機管理室)】

① コンプライアンスの徹底

【取組方針】役職員のコンプライアンス違反を未然に防止するため、コンプライアンスの推進に係る組織体制を強化し、役職員に対し啓発及び研修を実施する。

【期待効果】役職員が、コンプライアンスの重要性を深く理解し、適正な法人運営及び社会的信頼の確保、並びに教育研究の発展に寄与する組織をつくる。

② 災害時の危機管理への対応強化

【取組方針】危機事象の発生の予防及び被害軽減を図るため、リスク管理体制を強化し、災害時の訓練及びリスクに関する研修を実施する。

【期待効果】学園において発生する様々な事象に伴う危機に、迅速かつ的確に対処することにより、役職員や学生等の安全確保及び被害の最小化を図るとともに、学園の社会的責任を果たす組織をつくる。

【経営企画部(経営企画課)】

① 将来構想(Seiry Vision110)第1版の策定

【取組方針】学園創立 110 周年に向けて、あるべき学園像とその実現に向けた成長と改革の道筋を学園の全構成員で認識共有するため、第4次中期計画期間内に段階的に策定する。

【期待効果】将来ビジョンを策定し共有することにより、目標達成に向けてやるべきことを明確化することができる。

② 事業計画における PDCA 体制の確立

【取組方針】事業計画に基づき事業の進捗確認及び実施内容の点検評価を行う。

【期待効果】事業の進捗状況を確認し、到達目標達成に向けた点検評価を行うことで、年度目標の達成に寄与できる。

③ 「星稜 DX 戦略」の策定

【取組方針】学園将来ビジョンの実現に向け、学園全体を対象とした新しい教育・研究・業務・経営の在り方を再構築するための「X:Transformation(変革)」を、「D:Digital 技術及び Design 思考」を活用して実現していくための方針を「星稜 DX 戦略」として新たに策定したうえで、第4次中期計画期間内に学園の総合的な DX を推進する。

【期待効果】学園の DX 推進について、方針を明確にできる。また、DX 推進により教育の質の向上や業務の生産性向上等が期待できる。

④ 経営 IR 体制の推進

【取組方針】経営判断に資する学内外の各種データを収集・正規化・構造化し、必要な時に柔軟に活

用可能な体制を整えるとともに、データに基づく情勢認識、分析レポートを作成可能な業務体制を整える。

【期待効果】学園経営上の検討・判断に資する客観データ及び分析レポートを作成することで、適切な経営判断を支援することができる。

【経営企画部(人事課)】

① 働き方改革の推進

【取組方針】多様な働き方に対する雇用環境等の整備、各種制度の充実等や職員の健康維持・促進、時間外勤務削減、年休取得の推進等働き方改革に継続して取り組む。併せて、業務可視化や業務改善を視野に入れた業務マニュアル等の整備に着手する。

【期待効果】働きやすく、働き甲斐のある職場とすることで職員の帰属意識やモチベーションの向上が図られ、業務の質的向上と生産性の向上が期待できる。

② 新たな人事制度の導入及び検証

【取組方針】人事評価制度規程等に基づき人事考課制度及び目標管理制度を適正に運用する。課題・改善点を共有し、評価における納得性、信頼性の向上を図るための対策を講じる。

【期待効果】職員の能力・情意及び達成した業務実績等を公平・適正に評価し、それぞれの職員の能力を発揮できる適材適所の人員配置や適格者の昇格・昇任等による人材の有効活用が図られる。

③ 人材育成プログラムの構築

【取組方針】人事評価制度規程に基づき人材育成プログラムを円滑に運用し、職員の能力開発を図る。プログラムを検証し課題発見と改善提案を行う。

【期待効果】職員一人ひとりの資質・能力向上や学ぶ意欲の醸成が期待できる。併せて本学園の目標達成への貢献等職員にとっての働きがいの持てる職場となることが期待できる。

④ 5カ年任用計画の策定

【取組方針】将来構想を踏まえた各設置校の定員数や、経営方針・中期計画に基づき、組織体制や適正人数を検証の上、人材要件や雇用形態等を明確にし、5ケ年の任用計画を策定する。

【期待効果】計画的な任用を行うことで、求める人材の確保と健全な経営に寄与できる。

【情報システム部】

① DX 推進のための安定した基盤整備・環境整備

【取組方針】大学・短大における教育研究環境充実に向けた情報設備の整備及び更新

【期待効果】継続した情報環境整備を行うことで、学園、キャンパス内で PC やタブレットを活用した付加価値の高い学びや自学自習、学生生活、就職活動などが行いやすい環境となる。

② 情報セキュリティ対策事業

【取組方針】IT 資産管理ツールの運用や教職員のリテラシー、セキュリティ教育の実施を継続的に行い、学園全体のセキュリティレベルの向上を図る。

【期待効果】・教職員の情報セキュリティ意識の向上

・IT 資産管理ツールによるライセンス管理、運用コストの可視化

③ 学園業務情報化戦略の策定

【取組方針】学園の将来ビジョン及び中期目標に基づいて業務改善や DX、働き方改革につながる学園全体の情報化構想を事業継続計画(BCP)も含めて整備を行う。

【期待効果】・業務改善や DX による働き方改革

・事業継続計画(BCP)によって災害等による業務停止や情報資産喪失等のリスク低減を図る

④ IT 内部統制とガバナンス強化の取り組み

【取組方針】最適な設備投資計画に基づき学園全体の情報システムを構築し、セキュリティ維持とコンプライアンスに従い健全に運用する。

【期待効果】情報システムが職務権限に従った意思決定または承認プロセスを経て設計構築され、適切な権限で PDCA に則した統括管理体制のもとで運用される。

⑤ 情報システム部の一部業務委託化事業

【取組方針】Windows10 サポート終了に伴う教職員の業務用 PC を対象とした OS 入替及び PC 更新作業並びに 2026 年度からの BYOD 方式に対応するための学生サポート体制の確立を行う。

【期待効果】PC のキッティング作業及び IT 全般のコンサルティングに要する職員の作業負担軽減、大学の iPad 貸与から BYOD 方式に変更した場合の課題とされるノート PC サポート体制の強化が期待される。

以上